



No. 013

JTUC-TOYAMA

# 新川地協NEWS

〒937-0041 魚津市吉島 2-6-23

TEL 0765-24-3751 FAX 0765-24-4082

E-mail niikawa@toyama.jtuc-rengo.jp

発行年月日 2022年11月25日  
発行責任者 浦島 成友  
編集責任者 仲嶺 智昭

## 時代の変化に応じた活動の展開を！ 山積する課題が一つでも多く解決し、前進できるよう 向こう1年間、新たな地協運動に再挑戦！！



運動のさらなる深化の実現に向け、活動補強方針を確立するため、11月2日(水)に第18回定期総会を開催した。

冒頭、浦島副議長が開会挨拶し、魚津市職組の高瀬代議員、日本カーバイド労組の吉崎代議員を議長団に選出し、以降の進行を一任した。

新川地協を代表して、大森議長が「この1年間の諸活動に対する各加盟組織のご理解と積極的なご協力に、心より感謝申し上げます。本総会では、新川地協としての向こう1年間の補強方針を協議・確立する。第1号議案の加盟組織の確認では、アットフィールズテクノロジー労働組合の皆さんに連合富山ならびに新川地協へ新たに加盟していただき、これから共に活動をして行く運びとなった。連合富山への仲間入りを決断いただいたことに対し、感謝申し上げますとともに、新川地協の仲間の皆さんとともに心から歓迎し、今後のご活躍を祈念する。新川地協としても、7万連合富山をめざし、今一度、労働運動の基本に立ち返り、連合組織の多様性を意識した大きな仲間作りである組織拡大の取り組みに挑戦していきたい。第2号議案の活動補強方針では、アフターコロナを見据えた新たな地協運動、活動の在り方を検討し、柔軟に対応できる体制の早期構築をめざす。これまで、変えたくても変えることが出来なかったこと、この機会に思い切って変えて行く、挑戦すべき事は沢山あり、常に新たな課題は降り掛かって来る。現在、多様化する価値観がある中において、今一度、労働組合として、守るべきもの、変ものをしっかりと見定めながら、新たな活動スタイルを模索し、山積する課題が一つでも多く解決し、前に進めることができるように、向こう1年間、新たな地協運動に再挑戦する。まだまだ、コロナ禍の中で、制約や制限がある活動が続くと思われるが、共に知恵を出し合って、『地域に根差した顔の



環境変化を的確に捉え  
更なる飛躍を誓う大森議長

見える運動』の前進に向けて、皆さんと共に頑張っていきたい。これからも、時代は移り、環境が変わり、そして役員が変わったとしても、これまで新川地協が培った伝統を継承しつつ、今後も新たな環境変化を的確に捉えながら、新川地協の新たな未来に向けて更なる飛躍を誓う」と挨拶した。

続いて、連合富山の浜守会長から地協活動のさらなる前進に期待するとの激励の挨拶を賜った。

次に、各方面から届いた祝電・メッセージの紹介の後、仲嶺事務局長が2022年度活動報告、2022年度会計決算報告、2022年度会計監査報告を報告し、各報告事項すべてが承認された。



浜守会長から  
激励の挨拶を賜る



新たに仲間となったアット  
フィールズテクノロジー労  
組の土井委員長が挨拶

引き続き議事に入り、仲嶺事務局長が「第1号議案:加盟組織の確認」を提案し、承認された。今年度より、新たに連合富山に加盟した電機連合・アットフィールズテクノロジー労組の土井委員長から連帯の挨拶を頂いた。

続いて、「第2号議案:2023年度活動補強方針(案)」と「第3号議案:2023年度予算(案)」を一括提案し、満場一致で承認された。

続いて、「第4号議案:2023年度役員補充(案)」について提案し、満場一致の拍手にて承認され、新役員2名から挨拶を受けた。

その後、「第5号議案:連合富山2023年度特別執行委員選出(案)」について提案し、浦島副議長の特別執行委員選出が承認された。

続いて大家副議長が総会宣言(案)を読み上げて提案し、全会一致で採択され、すべての議事を終了した。

最後に、高畠副議長の閉会挨拶の後、大森議長のガンバロー三唱で総会を閉会した。



## < 当面の活動予定 >

- |                |                             |
|----------------|-----------------------------|
| 2022年12月 6日(火) | 魚津市2023年度予算編成に向けた政策・制度要求書提出 |
| 7日(水)          | 黒部市2023年度予算編成に向けた政策・制度要求書提出 |
| 2023年 1月18日(水) | 2023新春交歓会                   |
| 28日(土)         | 2023春季生活闘争学習会               |